

## 北房古墳マップ

### 緑と古代ロマンに 恵まれたまち北房



下村古墳

## 古代ロマン薫る里 北房

北房地域は、備中川流域に発達し周囲を緑の丘陵に包まれ古代以来豊かな文化を育ててきました。

古備文化と出雲文化の接するこの地域は、真庭市内でも古墳が集中する所で250基以上の古墳が確認されており、石室内からは多数の副葬品が見つっています。

また、戦国時代になると戦乱の舞台となり、今でも当時築かれた城跡が各地に残っています。

北房ふるさとセンターでは、大谷1号墳に代表される遺跡や古墳からの価値ある出土品を、保存ならびに活用を図りながら、学習と歴史的文化的交流を促進する場となっています。

## 利用案内

会館時間 午前10時～午後5時

開館日 毎週水・土曜日

入館料 200円(高校生以上)  
160円(20人以上団体)

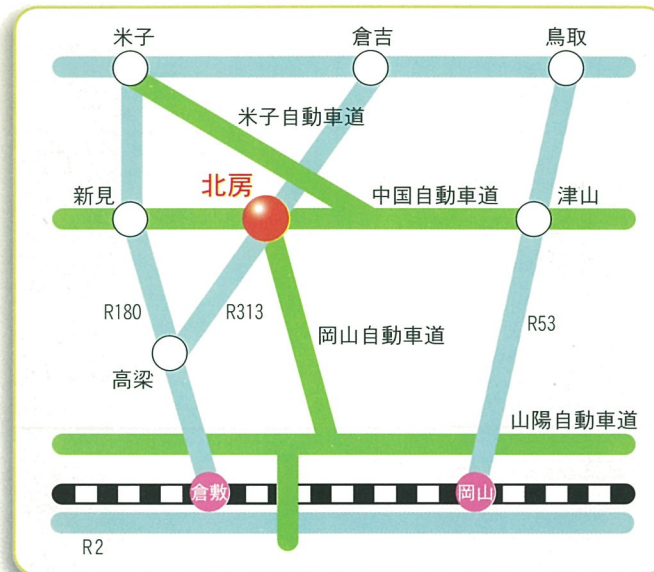
交通

- 中国自動車道北房I.Cから7km車で10分
- 北房些部バス停から徒歩で5分
- 岡山自動車道、北房水田バスストップからタクシーで15分
- JR備中高梁駅からバスかタクシーで20分

問い合わせ

真庭市役所北房振興局

〒716-1433 岡山県真庭市下些部 248  
TEL.0866-52-2111 FAX.0866-52-4496



## 北房ふるさとセンター

〒716-1433  
岡山県真庭市下些部 623-1 Tel.0866-52-4546

千有余年の歴史を誇るまち

# 北房ふるさとセンター







## 受け継がれてきた 技と心

郷土刀（國重・為家）

國重刀工の源流は、備中青江刀工為次、備後辰房一派の末裔である。南北朝の動乱により、四散していた刀工達の末裔が戦国時代大永の頃再び備中の地に帰り名を國重と改め活躍し、新刀期に入り繁栄の花を咲かせ、水田刀として天下にその名を轟かせた。



## 展示物の内容

地内の遺跡、古墳出土品を縄文時代から平安ごろまでの石器土器、鉄具、装飾品、陶棺、國重・為家刀剣、民俗資料、元禄の検地帳などの歴史資料、古代の土器や様々な道具をはじめ、歴史の中で発明され、工夫されて来た生活道具等。



江戸時代、明治時代、昭和初期までに使われていた農具生活用具等約300点

よみがえる、古墳時代末期の文化。  
類例のない古墳の出土品から、古代律令国家形成の一端を明らかにする。

## 双竜環頭大刀（長さ 110 cm）

非常に残りがよく、一部はがれているが、全面に金箔を貼っている。柄の飾りとして、玉を咬む2匹の竜が向かい合っている形が表現されている。完形品として出土するのは全国的にも大変貴重な出土品。



## 軒丸瓦（谷尻遺跡）

瓦葺建物の軒先を飾る瓦で、重弁八弁蓮花文軒丸瓦等6種類の文様が求められている。

## 県指定重要文化財 金銅製品（大谷1号墳出土）

幅7cmほどの小さな品に全面金箔を貼っており、非常に精巧につくられている。国内ではほとんど例がなく、用途は分らないが、儀式に用いた杖柄や刀剣の柄の飾りと推測される。



## 復元された大谷1号墳（平成7年3月16日公開）

7世紀後半に造られた横穴式石室を持つ方墳。五段構造の墳丘は天武、持統陵にしかみられない珍しい形式である。横 22.7m、縦 15.7m、高さ 7m、面積 1,061㎡。副葬品に日本に例のない金銅製品や双竜環頭大刀がある。646年の大化の薄葬令以後作られたものとされる。

## 銅鏡の蓋（定北古墳）

3号陶棺内から出た青銅製の蓋。器高 4.8 cm、口径 9.2 cm、厚さ口縁 2 mm、天井部で 1.2 mm 蓋の形状から、7世紀中頃～後半のものとされる。



## 陶棺（定北古墳）

素焼きで作られた棺。長さ 2m の大きさがあり、天井の形が亀の甲羅や家の屋根の形をしている。

